

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院 電気通信 学 研究科 博士前期課程		情報通信工学 専攻
氏 名	松本 佳希	学籍番号 0530051
論 文 題 目	複合名詞へのアクセント付与	
<p>要 旨</p> <p>本研究では、複合名詞のアクセントについて調査・分析し、アクセント結合するか否かの判定法構築を目的とする。</p> <p>テキストにアクセントを付与する場合、まずテキストを形態素(意味を担う最小の言語単位。単語と同じかより小さい単位)に分割し、それに対してアクセントを付与する。しかし、日本語のアクセントには、形態素同士のアクセントが結合する現象が起こる。例えば、「音声合成」という文節は、「音声」と「合成」という形態素から成り立っており、「オ ンセイ」と「ゴ ウセイ」が結合され、「オ ンセイゴ ウセイ」というアクセントに変化する。これがアクセント結合である。このアクセント結合には、(1)アクセント結合するか否かの判定と、(2)アクセント結合する際にどのようにアクセントが変化しているかという結合規則がある。(2)のアクセント結合の結合規則は既に解明されている。ただし、形態素の並び方によっては結合しない場合もあるなど、(1)のアクセント結合するか否かの判定が重要になる。既存システムでは複合名詞がアクセント結合するか否かを判定できず、システム精度に影響している。</p> <p>本研究では、複合名詞を構成する前部名詞と後部名詞について、アクセント結合の判定が可能な組み合わせを見つけることを目標としている。そこで、複合名詞を構成する形態素とそのアクセント、単語に対する馴染み深さを表す親密度、アクセントに影響する音節、言いにくさに影響する舌の位置・調音、複合語の連濁現象に影響する語種の6つに着目し分析した。そして結合の判定に有効と思われる組み合わせについて評価した。</p> <p>その結果「名詞-一般 + 名詞-形容動詞語幹」「名詞-一般かつ漢語 + 名詞-一般かつ和語、前部語末か後部語頭モーラが無声子音+母音」の、二つの組み合わせが結合の判定に有効であり、その他の組み合わせは有効ではないとわかった。これによってアクセント付与システムの精度向上が見込める。ただし、正確で自然なアクセント付与のためには複合名詞の辞書作成や、さらなる研究が必要である。</p>		